

目指す学校像	○「自ら学び、考え、主体性を持って行動する力」の向上が図れる学校 ○望ましい人間関係が身に付けられる学校 ○地域に根ざした信頼される学校 ○「安心・安全」で教育環境が整備された学校 ○美しい歌声が響く学校
--------	---

重点目標	1 「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)に基づいた個別最適で協働的な学びの充実(学力向上) 2 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実と安心・安全な学校づくりの推進(安心・安全) 3 地域とともに児童の成長と安全を見守るコミュニティ・スクールの推進(地域) 4 誰もが働きやすく、一人ひとりが自信をもって力を発揮できる職場環境の醸成(教職員)
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の各平均正答率は、全国・市を下回っている状況である。 ○さいたま市学習状況調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げていたりすることができていますか」の項目が、市を上回っている。 <課題> ○児童生徒のタブレット端末の活用状況では、高学年は使用頻度が高くなっているが、中学年や低学年はまだ低い状況である ○解答を記述する問題の無回答率が高い傾向にあった。自分の考えを表現することに苦手意識が見られる。	・ICTの効果的な活用した授業実践 ・個別最適化と協働的な学習に向けた研修体制の充実	○スクールダッシュボードの「おはようメーター」「学習アンケート」を活用し、タブレット利用の習慣化を図り、児童の実態を的確に把握する。 ○オクリンク、teams、canva等のツールを活用しながら、主体的な学びにつなげていく。 ○全国学力・学習状況調査について、自己採点を行うことで、児童自らの学習状況を把握し、目標を明確化して学習に臨めるようにする。 ○研修主任を中心として、teamsの研修チャットを活用しながら、教職員が「自走」して授業実践を行っていく。 ○リーディングDX推進校から講師を招き、授業公開・講義を実施する。	①さいたま市学習状況調査において、「ICTを活用した学び」に係る項目について肯定的な回答が90%以上となったか。 ②児童生徒の端末活用状況(3~6年)の「ほぼ毎日」を50%以上となったか。 ①学びの指標の「主体的な学び」についての学校全体の平均値を1回目よりも向上させることができたか。 ②さいたま市学習状況調査において「友達と話し合い、自分の考えを深め、広げる」について90%以上に行うことができたか。					
2	<現状> ○学校評価では、「学校生活が楽しい」と肯定的に回答した児童は91%だった。 ○児童数が急増しており、令和4年度に続き、今年度秋から校舎の増築工事が行われる。 <課題> ○児童や保護者が抱える悩みや不安、家庭を取り巻く環境が多様化しており、一人ひとりの実態に応じた対応が必要である。 ○学校評価の「様々な相談に対して誠実に対応している」の項目で児童の肯定的評価は78%であった。いつでも相談できるという安心感を高めていく必要がある。	・児童一人ひとりの実態に応じた組織的で迅速に対応できる生徒指導・教育相談・特別支援体制の構築 ・安全な教育活動の整備と児童の安全意識の向上	○いじめの早期対応と早期解決に向け、教職員研修等を通じて、いじめの認知や組織的な対応について共通理解を図る。 ○各種アンケートや保護者面談等から得られた情報を基に、ケース会議等を開き、多角的な視点で対応策を検討する。 ○校舎増築に向け、教育委員会や担当者と密に連携して計画を進め、保護者や地域に工事状況を周知する。 ○一斉下校・自転車運転免許講習・避難訓練等を通して児童が安全について主体的に考え学ぶ機会を充実する。	①学校評価「様々な相談に対して誠実に対応している」の児童の肯定的評価を83%とすることができたか。 ②組織的で迅速に対応が必要な場合に、ケース会議を開き、具体的な対応策について共有することができたか。 ①学校評価「環境に対して適切に取り組んでいる」の肯定的評価を90%にすることができたか。 ②学校評価の「安全指導に努めている」の肯定的評価を90%以上とすることができたか。					
3	<現状> ○指扇中学校と連携した学校運営協議会では「人との関わり合いを大切に子どもたち~郷土愛~」について充実した熟議が行われた。 ○昨年度から学校運営協議会に子どもたちが参加し、学校での取組を伝えている。 <課題> ○児童数の急激な増加に伴い、西大宮駅方面からの登校する児童が一つの横断歩道を渡らなくてはならない状況であることから、地域や保護者、行政とも連携した対応が必要である。 ○学校・学年だより以外で、学校運営協議会の取組や学校の様子などを発信する機会が少ない。	・持続可能なコミュニティ・スクールの推進 ・学校や児童の様子等の積極的な情報発信	○学校運営協議会において、「人との関わり合い」についての熟議を継続し、授業参観、児童との給食など、工夫しながら会議を運営する。 ○学校運営協議会だよりを作成し、保護者や地域に公開する。 ○授業参観、学校行事等の公開や学校安心メール、スクリーン等、多様な機会、媒体で「目指す学校像」「目指す児童像」や教育活動を発信し、共通理解を深める。 ○学校HPで「指北っ子の活動」ブログを新たに立ち上げ、児童の様子を積極的に公開する。 ○指扇まつりなどの地域行事で合唱部が歌を披露する。	①さいたま市学習状況調査「地域とのかかわり」の肯定的評価を80%以上とする。 ②学校運営協議会だよりを年3回保護者や地域に公開することができたか。 ①学校評価「学校の様子がよくわかる」の肯定的評価を90%にすることができたか。 ②児童や教職員の様子を、学校HPのブログ等で保護者や地域に公開することができたか。					
4	<現状> ○昨年度、ICTを活用した個別最適で協働的な学びの授業実践の豊富なリーディングDX推進校に、数名の教職員が視察に出るなど、教職員が授業改善に意欲的である。 ○教職員が増加したことで、より働きやすい職場環境が必要である。 <課題> ○経験の少ない教職員や若手教員が自信をもって児童と向き合い、授業を行うための支援体制の充実が課題である。 ○教職員の増加に伴い、業務内容を見直し、業務改善とペーパーレスを実践し、効率的な業務遂行が必要である。	・教職員一人ひとりがスキルアップを図り、自信をもって能力を発揮するための教職員研修の推進と職場環境の醸成	○授業観察を計画的に行い、年次や経験等に応じ「学びのポイント『じ・し・ゃ・く』」「キャリアnavi」を基に指導助言を行う。 ○初任者研修、年次研修、学校課題研修、指導訪問等を活用して、教員同士が学び合う場の充実を図る。 ○業務を見直し、教職員からのアイデアを取り入れた業務改善を実施する。 ○働きやすい職場環境に向け、教職員からの相談等に常に耳を傾け、丁寧な対応を行っていく。	①学校評価(教職員)の「業務改善」についての肯定的な評価を85%にすることができたか。 ②学校評価(教職員)の「働きやすい職場である」の肯定的評価を80%以上とすることができたか。 ③ペーパーレスを推進し、紙代を昨年度から5%削減することができたか。 ④働きやすい職場環境に向け、教職員からの相談等に常に耳を傾け、丁寧な対応を行うことができたか。					